



令和5年7月6日

(お知らせ)

京都市文化市民局
〔 担 当 元離宮二条城事務所 〕
TEL (075) 841-0096

「二条城障壁画 展示收藏館」原画公開 令和5年度夏期

勅使を迎える青楓
とおぎむらい
～〈遠侍〉勅使の間～

元離宮二条城では、「二条城障壁画 展示收藏館」において、二の丸御殿障壁画（重要文化財）の原画を公開しております。この度、夏期原画公開「勅使を迎える青楓 ～〈遠侍〉勅使の間～」の開催について詳細が決まりましたので、お知らせします。

今回は、二の丸御殿の中に特別に設けられた、朝廷のための部屋である勅使の間に描かれた障壁画を展示します。作者は、狩野甚之丞(かのうじんのじょう) (1583-1628) と考えられており、桃山時代後期の画風を残しています。

是非、この機会に二条城へお越しく下さい。

1 会期

令和5年7月13日（木）～9月10日（日）〔60日間〕

2 入館時間

午前9時～午後4時30分（閉館は午後4時45分）

※ 二条城の入城受付は、午後4時まで。

3 会場

元離宮二条城内 二条城障壁画 展示收藏館

（〒604-8301京都市中京区二条通堀川西入二条城町541番地）

※ 二条城にお越しの際は、公共交通機関を御利用ください。

4 入館料

100円（未就学児無料）

※ 別途入城料が必要です。

※ 市内に在住・在学の小中学生、市内在住の70歳以上の方（敬老乗車証等で住所、年齢を確認できる方）、各種障害者手帳等をお持ちの方については、入館料を徴収しません。

5 公開作品

(1) 〈遠侍〉勅使の間障壁画《楓檜桃小禽図（かえでひのきももしょうきんず）》（障壁画面数：29面）

(2) 解説及び見所 裏面のとおり

6 お問い合わせ先

京都市文化市民局元離宮二条城事務所

〔 〒604-8301 京都市中京区二条通堀川西入二条城町541番地
TEL: (075) 841-0096 FAX: (075) 802-6181 〕

ちやくし あおかえで
勅使を迎える青楓
とおぎむらい
～〈遠侍〉勅使の間～

〈遠侍〉勅使の間は、寛永3年(1626)の二の丸御殿の大改修で、朝廷のために設^{しつら}えられた部屋だと考えられています。勅使は、天皇の代理人として、その意思を伝える使いで、特別に部屋が用意されて丁重に迎えられました。

勅使が二条城に遣わされたのは、寛永11年(1634)に徳川幕府3代将軍家光(1604-51)が30万の大軍を率いて上洛した時、文久3年(1863)に14代将軍家茂(1846-66)が229年ぶりに上洛して二条城に入った時、慶応2年(1866)に二条城で行われた15代将軍慶喜(1837-1913)の将^{しょうぐんせんげ}軍宣下の時です。

勅使の間の設えは、上段に将軍が座すことが想定されていないため、御殿内の他の対面所と違います。たとえば、他の対面所は、上段むかって左側に主の書齋^{つけしょいん}としての意味をもつ付書院が設けられているのに対し、ここでは付書院が設けられていません。障壁画は、桃山時代後期の画風を残しており、作者は、狩野甚之丞^{かのうじんのじょう}(1583-1628)です。勅使が背にする大床^{おおどこ}と帳台^{ちょうだい}襖^{ぶすま}に描かれているのは、春に赤色の葉を芽吹き、夏に緑色へと変化する青楓。部屋全体が春から夏を彩る植物で統一されています。

大政奉還がされると、明治17年(1884)に二条城は離宮^{りきゆう}になります。明治18年(1885)から翌年にかけての二の丸御殿の修理の際、勅使の間の障壁画の一部が描き直されたと考えられ、七羽の鳥と堇^{すみれ}が省略されたものへと変わりました。明治33年(1900)と明治40年(1907)の行啓では、嘉仁皇太子^{よしひとこうたいし}(1879-1926)(後の大正天皇)への拝謁が勅使の間で行われました。

青楓が季節によって葉の色を変化させるように、時代によって迎える人や、障壁画に描かれているものが変化した勅使の間。青楓は、時の移り変わりを見つめていることでしょう。



〈遠侍〉勅使の間障壁画《楓檜桃小禽図》部分



〈遠侍〉勅使の間障壁画《楓檜桃小禽図》部分